

竹原管内景況調査

9月の景況DIは、製造業・非製造業とも大幅に下降

当所では、地域商工業者の景況並びに経済動向等に関する情報の収集・分析を行っています。今号では、平成30年9月に実施しました調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

調査概要

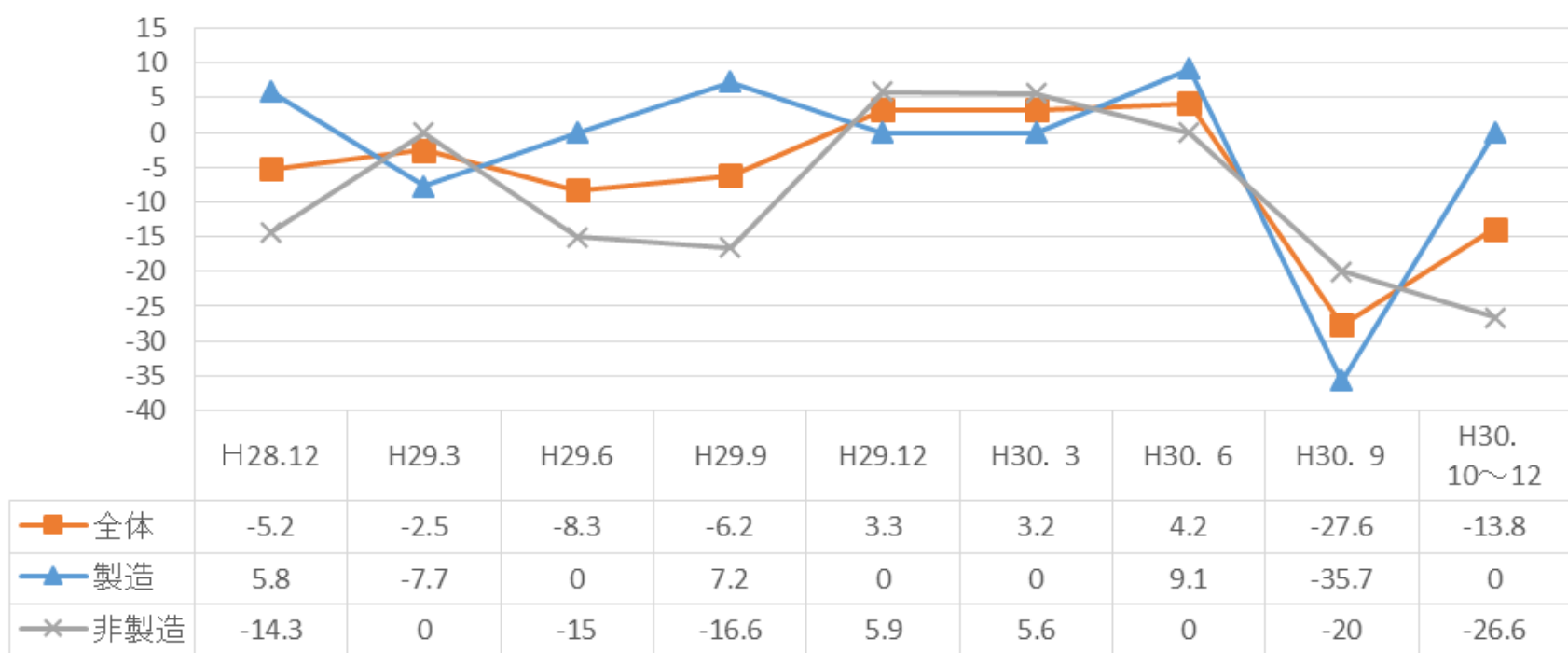
【調査時期】
四半期毎に調査(年4回実施)
【調査期間】
平成30年9月
【調査対象】
当所会員

回答状況

産業	対象事業所	回答数
製造	17	14
建設	6	3
小売	21	6
サービス	13	6
合計	57	29

●全産業におけるDI値

景況DIの推移



9月の景況DI数値は、前回調査と比べて製造業は23.2ポイント悪化し、非製造業は26.6ポイント悪化しています。9月と比べて10月～12月までの見通しは、全体では、13.8ポイント好転しています。



※DI(ディフュージョン・インデックス)は、各調査項目についての判断の状況を示します。

ゼロ基準として、プラス値は景気の上向き傾向(「良い」)をあらわす回答の割合が多いことを示し、マイナス値(▲)は景気の下向き傾向(「悪い」)をあらわす回答の割合が多いことを示します。

●景況が好転(悪化)した理由について

《製造業》

- ・気象変動によって需要の減少の見込み。
- ・大手機械メーカーの海外輸出の減少による受注の減少。
- ・取引先の調達が先延ばしになり発注が遅れているため、弊社の受注が減少。
- ・お客様の節約志向は依然続き、コンシューマー向けの販売については全体としては横ばい状態。

《非製造業》

◇小売業

- ・7月にあった西日本豪雨災害により、ツアー客が減少し売上が減少している。
- ・売上の大部分が地域の高齢者で、施設や病院に入院され年々すくなくなっている。
- ・JR呉線の影響があり、業務店向けの販売が低調。

●平成30年度の業界動向の見通しについて

《製造業》

- ・災害の影響で輸送関係の流れが悪く、生産調整が続くと思われ、好転は難しい。
- ・上半期は忙しかったが、8月ぐらいから売上高が低迷、今年いっぱい、若しくは3月ぐらいまで見通しは悪い。
- ・不確定要素が多く、運賃の値上げが利益の下降に影響している。
- ・下期については、製品の一部が海外に移管されるので受注の減少が予測される。
- ・災害の影響で、スーパーなどの店頭販売では若干のマイナス影響が見込まれる。一般消費者の節約志向は引き続き継続すると考えられ、売上としては、横ばい傾向とみている。

《非製造業》

◇小売業

- ・利用者は回復傾向にあるが、ツアー客の70%程しか回復しておらず、前年より悪化の見込み。
- ・固定客が減少するので下降と思う。
- ・豪雨災害があった為、予測しにくい。

◇サービス業

- ・設備投資してもそれ程売上が伸びない。

(※アンケート全体から一部抜粋しています。)